県政この1年を振り返る

新しい熊本をめざして また一歩前進しました。

この一年、熊本県は、〝躍動するくまもと〟〝優しいくまもと〟づくりに向けて、さまざまな取り組みを行いました。その主な動きを振り返ります。

1月から　水俣病問題が解決に向けて大きな節目を迎えました

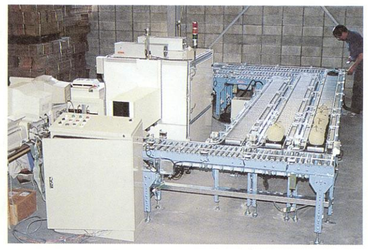
本県の長年の課題であった水俣病問題は、昨年末に決められた政府解決策に基づき、一部の訴訟を除き患者団体の方々が国と県に対する国家賠償請求訴訟を取り下げ、また、チッソ（株）と和解したことにより、大きな節目を迎えました。

1月から　やさしいまちづくりの具体化を進めました

高齢者や障害者の方々をはじめ県民だれもがいきいきと暮らせる社会の実現に向け、やさしいまちづくり条例の理念に沿った事業の具体化を進めました。

昨年策定した県の推進計画に加え、市町村がやさしいまちづくりを進めるうえでの指針となる手引きを作成しました。また、障害のある方々への理解を深めていただく場として「くまもとハートウィークス」を開催しました（写真）。

1月から　試験研究機関による研究開発が相次ぐとともに、起業化支援のための取り組みが進みました



地域企業の技術力向上を目指し研究開発に取り組む県工業技術センターは、船舶などに用いられる繊維強化プラスチック（ＦＲＰ）の再利用技術などを開発。（財）熊本テクノポリス財団附属電子応用機械技術研究所は、産学行政の共同研究により、メロンに傷を付けずに甘さを測る機器（写真）や、工場の製造ラインなどの制御を効率的に行う機器などの開発に成功しました。

また、新分野への進出などを行う企業への支援を強化するため、（財）熊本県起業化支援センターの設立などを行いました。

3月　都市計画道路・八代臨港線が開通

八代外港と国道3号、九州縦貫自動車道八代インターチェンジを結ぶ八代臨港線が開通しました。総延長は約九・八キロメートル。八代港の機能の拡充と地域経済の活性化、八代市街地の交通混雑解消などに大きな期待が寄せられています。

3月　阿蘇谷地区県営ほ場整備事業が完成

県内最大の大型ほ場整備事業として昭和四十六年に着工した阿蘇谷地区県営ほ場整備事業が完成しました。阿蘇カルデラの北部にある「阿蘇谷」は、約四千百ヘクタールにおよぶ広大な水田地帯。事業の完成により、水田約三千四百ヘクタールの区画整理、用排水施設、農道などが総合的に整備されました。

4月　「ジャパンカップ'96・熊本」開催

来年五月いよいよ「一九九七年男子世界ハンドボール選手権大会・熊本」が開催されます。県民の皆様と一緒に盛り上げていきたいと思います。

さて今年は、県政においても各分野で着実な成果がありました。「躍動するくまもと」と「優しいくまもと」に向けて、これまでの歩みを確かなものにすることができたと思っています。とりわけ「'96くまもと漱石博」や「くまもとアートポリス'96」など多彩な催しを通じて、熊本の魅力を再発見し内外に発信することができた年でした。

それと同時に、長年の懸案でありました水俣病問題について、紛争状態がおおむね終結し、峠を越すことができました。今後は、残された課題である九州新幹線鹿児島ルートの早期全線着工を目指して、なお一層の努力を尽くしていきたいと決意しています。

なお、県税の課税事務につきまして、一部に誤りがあり、大変ご迷惑をおかけしました。今後は、二度とこのようなことがないよう万全を尽くしたいと考えています。

まもなく新しい年を迎えます。県総合計画「ゆたかさ多彩『生活創造』くまもと」も計画期間の後半に入りますが、これからも社会経済環境の変化に柔軟かつ的確に対応しながら、計画の実現に向けて新たな気持ちで全力投球します。

最後に、新しい年が皆様にとってよい年でありますようお祈りいたします。

知事室から

熊本県知事
福島　譲二

今年も残すところわずかとなりました。県民の皆様にとってどのような年だったでしょうか。

この一年を振り返って最も心に残る出来事の一つは夏の甲子園での熊工ナインの大活躍です。私も応援に駆けつけましたが、決勝戦での選手たちの素晴らしいプレーは、全国の多くの人々に大きな感動を与えました。熊本でも、来年五月の「男子世界ハンドボール選手権大会」、その二年後には「くまもと未来国体」、全国の身体障害者の方々が集う「ハートフルくまもと大会」と、スポーツのビッグイベントが相次いで開催されます。県民の皆様と一緒に盛り上げていきたいと思います。

4月から11月　「'96くまもと漱石博」開催

会・熊本」が開催されます。そのプレ大会となる「ジャパンカップ'96熊本」が四月九日から十四日までの六日間、県内各地で開催されました。世界のトッププレーヤーのスピードとパワーあふれる好プレーに会場は熱気に包まれました。

今年は、夏目漱石が旧制第五高等学校の教師として熊本に来て百年という記念すべき年でした。県では、県民各層の協力を得て、さまざまな催しを行い、漱石をめぐって熊本県の魅力と豊かさを県内外に発信しました。また、文化や観光面でも熊本県のイメージアップと観光客の誘致を図りました。

7月　「くまもと未来国体」開催正式決定

七月九日、「くまもと未来国体」と、全国身体障害者スポーツ大会「ハートフルくまもと大会」の平成十一年開催が正式決定されました。「くまもと未来国体」の会期は夏季大会が平成十一年九月十一日から十四日まで、秋季大会が同年十月二十三日から二十八日まで開催され、正式・公開競技三十九競技と県民の皆さんも参加できるスポーツ行事七行事が県内五十九市町村で開催されます。また、「ハートフルくまもと大会」は同年十一月六日から七日まで陸上他六競技が実施されます。

7月　いじめ緊急熊本会議が発足

いじめ問題を根本から解決するため、「いじめ緊急熊本会議」を発足させました。各分野の有識者の意見を問題解決に反映させ、県民全体で取り組む気運をつくっていくことを目的としています。なお、十二月十一日には「いじめ緊急熊本県民大会」を県立劇場で開催し、県民の皆さんと一緒に考えることとしています。

8月10月　県産材の需要拡大を目指し、県民運動を展開

林業の活性化を目的に、県産材の需要拡大のための取り組みを進めました。八月の林業関係者による推進大会開催に続き、十月には「くまもとウッディフェア'96」を開催し、県民の皆さんに森林や木材の魅力、重要性をアピールしました。また、県内各地で公共建築物の木造化などを訴えました。

8月から11月　くまもとアートポリスの成果を国内外へアピール

熊本国際建築展「くまもとアートポリス'96」を開催し、本県の新しい建築文化への取り組みを国内外に広くアピールしました。文化的な資産としての建築物をつくり、地域活性化に貢献することを目的とするくまもとアートポリス。世界各国の建築家や地域づくり関係者などが建築やまちづくりについて意見を交換しました。（写真は、小国町杖立橋）

9月　保健所と福祉部門が同居する新しい八代総合庁舎が完成

熊本県八代総合庁舎が完成しました。保健・福祉サービスの連携を強化するため、初めて保健所と福祉部門をはじめとする総合庁舎の各機関が同居しました。また、親しみのもてるオープンカウンター方式を採用したほか、雨水を地下に浸透させる舗装を施すなど、環境への配慮を行っています。

10月　川辺川ダム本体工事着工に伴う協定が締結されました

建設省が建設中の川辺川ダムは、計画発表から三十年を迎えた今年、五木村と相良村が本体着工に同意したことに伴い、十月十一日建設省九州地方建設局、五木村、相良村、県の間で協定が締結されました。

12月　九州新幹線の実現に向けて力強く運動を展開しました

年内に国において整備新幹線未着工区間の整備計画が策定されることとされています。

県では、博多～八代間の着工などの実現に向けて、官民一体となって総決起大会や国などへの要望活動など、積極的な誘致活動を展開しました。十二月三日には、東京で鹿児島ルート四県合同による総決起大会を開催。これに先立ち、五月十七日には、熊本市内において一万一千人が参加した総決起大会を開催し（写真）、県民の熱意を強くアピールしました。